



2003 ~ 2004 年度

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA—NORTH

例会日：毎週水曜日 12:30 ~ 13:30

例会場：越谷市千間台東1-1-6

クオレ千間台 2F

TEL 048 (975) 9898

FAX 048 (977) 3741

創立：1976年5月11日

会 長：小林 操

副 会 長：今野 忠雄

幹 事：太田 靖彦

会報委員長：石川 輝次



第1347回例会記録 No.9

平成15年9月10日

司会：中島 正義

編集：石川 輝次

会次第

- 1、点鐘
- 2、ロータリーソング（我等の生業）
- 3、会長挨拶
- 4、幹事報告
- 5、外部卓話
- 6、終鐘

次回例会予告

平成15年9月24日

会員卓話

小山 哲央 会員

「職業上の出会い」

会長挨拶



会長 小林 操

こんにちは。遠藤さん、今日の卓話、
よろしく願い申し上げます。遠藤さん
は、実は私と同じ町内で、私がロー
タリーに入会する以前、地元の交友会
と言う青年団みたいな団体に入って
いた時に、私と年齢が一緒と言うこと
もあり、ずいぶんお世話になりました。
また以前は卓球のコーチをなさって
おり、私も含め家族全員が教えを受け
た恩人です。また蛇足かもしれませんが、
お互いに娘が確か同じ年の生まれ

で、名前が里美と悟実さんだと思います。

あとでご紹介があると思いますが、遠藤さんは、各地の伝統工芸展で、展示、実演され、一度、表参道駅近くで展示されたのを記憶しております。ふだん地元の仲間としか見ていないので、今日は、物作りの原点である、職人さんの生の声を聞けることが楽しみです。遠藤さん宜しくお願い申し上げます。

先日の土曜日にグルメ探訪の第1回として、白岡の樹庵という蕎麦屋さんに行って来ました。会員の一柳さんのご親戚であり、増田さんのお友達であるとのこと。お弁当風の料理にそば、そして、オカリナの演奏、私はあまり音楽に興味がないのですが、当日の席がたまたまパーカッションの近くで、えらく感動しました。次回の企画が楽しみです。また親睦委員会には、当日の会費が若干余ったと言うことで、スマイルにという配慮を頂き、社会奉仕委員会に代わり、御礼申し上げます。会員の皆様も普段、会費等が余った場合、是非、スマイルにと言う習慣をつけていただければ、本年度社会奉仕委員長は、泣いて喜ぶのではないかと、思っております。

これをもちまして挨拶に代えさせていただきます。有難う御座いました。

幹事報告



幹事 大田靖彦

第5グループ新会員研修セミナーの案内状が来ております。当クラブの5年未満の会員は9名です。メールボックスに案内状を入れておきました。日時は10月25日(土)です。

例会変更

越谷西RC、越谷中RC、蓮田RCです。

本日持ち回り理事会で第29回市民祭りの個人協賛金のクラブ内募集が承認されました。

委員会報告



社会奉仕委員長 亀田 栄一

9月5日に地区の社会奉仕部門委員会に青木清環境保全委員長と出席致しましたので報告を致します。地区委員会は会長、地域奉仕部門、環境保全部門の三部門の分科会となりましてそ

ここで様々な意見の交換がありました。今年の社会奉仕部門の二大方針としてポリオ撲滅運動とアイバンクに協力ということになっておりますので会員皆様のご協力をお願い致します。

3 分間ロータリー情報



情報・雑誌委員会 小林光則

ロータリーの行動、歴史的事実から推測する「ロータリアンらしさ」とは？

「ロータリーらしさ」とか「ロータリアンらしさ」と一言でいいますが、この「らしさ」あるいは「らしい」という言葉は非常に曖昧で、表現することは大変に難しく、かなりの部分で個人的な、そして偏見のある意見になってしまいますが、ご了解をいただきたいと思えます。

なんと言っても最初に頭に浮かぶことは、1905年にシカゴにて誕生したロータリークラブですが、ロータリーとして初めて行なったとされている、社会奉仕の事業こそがその「ロータリーらしさ」の初めではないかと思えます。

市民が必要としている公衆便所を自

分達ロータリアンだけで設置しようとせず、市民の連合組織を召集し、そして市当局を説得し、助成金を獲得して設置したことは、のちのちのロータリークラブの社会奉仕事業にも大きな影響を与えたわけですから、この「らしさ」については皆様も同意見なのではないでしょうか。

つぎに1908年にシカゴクラブに入会したアーサーフレデリック・シェルドンがロータリーのモットー（motto）である「He profits most who serves best.」という言葉が最初に述べたとされていますが、このなかで「最も多く報われる」という部分の解釈のなかで「最大多数の最大幸福ということからいって、これは物質的利益であってよい、しかし、求利の念を純化して正しい方法にて利潤を上げるよう努力すべきである」と述べています。

これに対しては様々な論議があったようですが、後年ポールハリスがこのことに触れ、この Profits はドルでもなく、セントでもなく、それは人生の SOMETHING だと強調したということですが、このことは私にとっても非常に印象深く、まさに「ロータリアンらしい」と感じたエピソードであります。

最後に日本のロータリーに目を向けますと、1920年に東京クラブが誕生したわけですが、その六年後の昭和元年に第二代スペシャルコミッショナーに就任した井坂 孝（第一代は米山梅吉）さんが「ロータリーは人間一切

の行動を律するものでなく、その職業に関するものだけであることを明らかにして、1業種1人制の意義は大きく、ロータリアンはロータリーからそれぞれの業界へ派遣されているアンバサダー（大使）の役割をしなければならない。」と述べられたそうですが、この言葉も正に職業奉仕の最終的な目標を言い表していると思いますが、さすが創世記のロータリアンだと思います。

外部卓話



桐箱製造業 遠藤 正 様

皆さん今日は。本日はお招き頂きましてありがとうございます。ただいまご紹介頂きました遠藤と申します。地場産業についてお話してくださいと言う事ですので申し上げます。越谷には「達磨」「手焼きせんべい」「雛人形」「桐箱」「桐たんす」の五団体が地場産業として協力してイベントを行っております。その中で私は桐箱の製造を三十四、五年やっております。昔は越谷近辺で桐箱製造業が六百軒程ありましたが現在では越谷市内で九軒になってしまいました。今、量産ものはほと

んど中国から来てしまいますので我々は一つ一つ寸法の違う単品物を作っているというのが現状です。私も最初は量産物をやっておったのですが人手不足から単品物に切り替えました。上野の国立博物館の修理室で修繕した国宝、あるいは重要文化財等を保存する箱を作っていた方に師事致しまして修行がてら勉強をさせていただきました。親方が言うのは桐の木に落雷したとき木は外側に向かって裂けるそうです。ですから箱にするときは木の芯側を外にして作ると丈夫だと教えられました。桐の良さと言いますとまず軽い事、年輪に細かい気泡がありまして湿度を調整してくれますので中の品物が傷まないということが特長です。日本は多湿の日が多いものですから桐箱が多く使われてきたのだと思います。手仕事というものは道具で仕事をしますが、桐の場合には切ったり、削ったりしますが、削る場合は鉋を使います。鉋も用途により直し方が違ってきますし、季節によっても直し方が違います。微妙に狂ってくると細かい「かんなくず」が出なくなります。公式通り直してもなかなかうまくいきません、鉋もみんな個性があります、人間と同じで個性をうまく使いこなすというのも一つの技術かと思えます。



桐箱は中に入るものによって作り方が違います。掛け軸とか巻物を入れる箱は印籠箱という作りになりますし、仏像とか人形を入れる箱は落とし戸作りという作り方で作ります。焼き物を入れる箱は紐をつけて四方段作りという作り方で作ります。ちょっと手を抜くと二法段といって下駄のような作りになってしまいます。書類などを入れるのはかぶせ箱と言います。このように桐箱は中に入るものによって作り方が異なります。箱作りの急所は堅くなく、緩くなく丁度良く作るという事です。三十四、五年やってきて感ずることは自分である程度、品物の価値が解るような気がします。というのは自分の五感を使って仕事をしていますのでそれなりに判断できるのだと思います。

桐箱の未来というか将来についてですが、後継者も少ないですし中々大変だと思います。それぞれ皆さんが大切にしているものを保存するには、いろいろな容器がありますが気候も考えますと桐箱が一番向いていると思います。それから最近ではデパート等の仕入れ担当のものを見る目が肥えている人が少なくなってしまったので昔は良い物、悪い物の説明が出来たし理解してもらえたのですが今は値段だ

けで判断されてしまうのが残念です。手作りの物はその作った人の心が入っているものですから、心を買ってもらおうと言いますか、自分が死ぬまで恥じない仕事をして行こうという心掛けで毎日仕事に励んでおります。



出席報告

会員数 51名
出席免除 4名
出席者 34名
欠席者 13名
出席率 72.3%